

平成20年8月4日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日 時	平成20年8月4日(月) 午後1時15分
場 所	教育委員会室
開 会	午後1時15分
閉 会	午後3時58分
出席委員	
委 員 長	高 林 眞 理
委 員	高 木 新 太 郎
委 員	高 杉 政 宏
教 育 長	久 保 孝 之
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	坂 本 康 治
庶務課長	鈴 木 陽 子
学務課長	石 井 秀 和
指導室長	仁 王 紀 夫
すみだ教育研究所長	岸 川 紀 子
生涯学習課長	福 山 弘
スポーツ振興課長	郡 司 剛 英
あずま図書館長	吉 田 章

2 会議の概要

高林委員長 それでは、教育委員会を始めたいと思います。本日の会議録署名人は高杉委員にお願いいたします。それでは、日程に従って進めさせていただきます。なお、議事の都合により適宜教育委員会を閉じ、休憩することもあるかと思いますが、ご了承ください。また、本日は横井委員が都合により欠席となっておりますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により、委員長及び在任委員の過半数が出席しているため、会議は有効に成立しておりますことをご報告いたします。

議決事項第 1

議案第81号「平成21年度区立小・中学校の募集人数について」の案件を上程し、学務課長が説明する。

久保教育長 今回の募集人数のことで今までとちょっと違った要素が入っているのは、本所中学校を通学区域とする住基上の生徒数が182人いるのに、募集人数が180人でどうなのかということでございます。今までは住基上の生徒数の182人を募集枠にしておりましたが、入学率や授業などのいろいろな様相を加味して少し余裕を持ちたいということで180人という設定をしております。これを是とするかどうかというのが1つの大きなポイントです。ほかのは基本的にはルール計算の中での処理でございますのでよろしいかと思いますが、この点やはり地元の子が全員入れるという182人にこだわって募集したほうが良いのか、そうはいつでも実際にはかなりの数が欠けていくということが恒常化しているということを加味し、180人で是とするかでございますが、私も話を聞いたときは悩みましたが、今後いろいろなことを考えていきますときに、この辺の若干の加味があるほうが今後の設定がしやすい面があるかなということで、180人で提案させていただきました。

高林委員長 今、教育長からご説明いただきましたけれども、住基上の生徒数が182人なのに募集は180人と言うのはやはりいかがなものかと思えますけれども、委員の皆様はいかがですか。

高木委員 2人ぐらいですからつけておいたほうが無難だと思います。180人ですと数字合わせとして末尾を0と5にした、そういうふうにとられかねません。

高杉委員 学校選択制を開始してから何年も経過し、ある程度統計的な数字が出てきているので、これからのことを考えると住基上の人数だけにこだわるのはどうかと思います。今回の住基上の人数190人に対し募集人数を170、180人にしたわけではないので、とりあえず良いのではないのでしょうか。

高木委員 2人くらいでしたらわざわざ減らさないほうが良いと思います。どうなるかわかりませんが、やがて学校選択制も検討することになってくるわけですから、それまではやっぱり住基上の人数分を受け入れたいほうが無難な気がします。姿勢として今までそうしてきたわけですし。

高林委員長 学校選択制をとっておりますけれども、教育委員会としてはなるべく地域の学校に行きましょうというスタンスで今まできていると思うんですね。ですから学校選択制で応募人数が動くだろうからという見込みで削ってしまうのはいかがなものかと思えます。

学務課長 現状におきましては学校選択制の問題も1つはございますが、現実に私立学校に行く子どもたちが多いという中で、学務課の事務上の問題を申し上げて申しわけございませんが、やはりこの募集人数を設定した後に学区域内への転入者等もかなりいる状況ですので、現場からお願いとしましては、できれば180人にさせていただくとありがたいというところがございます。

高木委員 事務上、180人ならいいけれども182人では困るという意味ですか。

学務課長 たった2人といえど2人ですが、例えば現実に私立学校へいらっしゃるお子さんがかなり多く、学区域の子ども数を見ると180なり182人をかなり下回ることがここ何年もの傾向です。そうした中で、学校選択制において募集人数を極限まで設定したときに、この後に学区域に転入してくる子どもたちの枠の確保という問題が一方ではございますので、教室の余裕がとれない現状においては一定程度の確保を実務上はぜひともお願いしたいというところがございます。

高木委員 2人のために事務上非常にやりにくくなるという、その辺の空気が僕らにはわからないのですが。

高林委員長 事務上のことでやりにくいからというのは、ちょっと私もわからないんですけども、

どうでしょうか。

久保教育長 事務上の都合で、こういう原則を優先するのは好ましくないということですね。ただ、特に中学校は私立を選択するということがありますので、それを視野に入れた設定を是とするかどうかということになるのかなと思っております。この傾向はほかの学校でも見られますので、そういう点では住基上の人数にぴったり設定しなくても、そういう私立を選択する子どもたちがいるということ前提としたルールをつくってもよいのではないかなというのが今回のご提起というふうに思います。ただ、今回余りにも唐突でございますし、それから数からいえば2人でございますので、今までの原則をここであえて覆す必要はないということであれば、それはそれとして受けとめさせていただく方向もあると思います。

高杉委員 将来を見ますと、やはりどうしてもこういう傾向が出てくるのではないのでしょうか。182人のところを2人減らして180人で募集しても地元の学区の子どもを排除するというにはならないのではないかなと思えました。もちろん原理原則は182人で募集することなんでしょうけれども、ただ、この辺はやっぱり事務的な手続だからという理由では非常に良くないと思います。

高林委員長 これを公表したときに、区民の皆さんがどうお考えになるかということも念頭に議論していただきたいんですけども。

久保教育長 事務的な都合についてはなかなか承知いただけない部分が多いと思いますし、ご説明しても難しい面もあると思いますので、これからは原則として募集人数についてある程度私立に抜けていく分を含めた数値を立てていくのかどうかということになるわけですが、まだそこまでの話にはなっておりませんので、今回は今までどおりということにいたしましょうか。

高木委員 そうですね。それともう1つ、今、住基上の人数から判断しているわけですが、それに替わって入学者ベースに移すというのは割と大きな変更ですので、もっと議論したほうが良いのではないかと思います。

高林委員長 今回の募集人数については今日初めて見させていただいて、住基上の実数より募集人数が少ないということが出てまいりましたので、ここで結論を出してしまうのはちょっと難しいような気がするんですね。もう少し議論をさせていただきたいんですが、今年度は今までと同じルールでというわけにはいかないでしょうか。

学務課長 そのような形で進めさせていただきたいと思います。

高林委員長 それでよろしいですか。そうしますと募集人数は182人になるわけですか。

学務課長 はい。

高林委員長 高杉委員さんいいですか。

高杉委員 はい、いいです。

高林委員長 では、本所中学校は募集人数を182人にさせていただくということで、この後また今回提起された問題につきましては協議させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。それでは、議決事項第1、議案第81号、平成21年度区立小・中学校の募集人数については、本所中学校の数を182にし、その他は原案どおり決定することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高林委員長 それでは原案どおり決定いたします。

議決事項第 2

議案第82号「平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択について」の案件を上程し、指導室長が説明する。

高林委員長 審議に入る前に、これまでの経過等について確認させていただきます。墨田区立小学校教科用図書採択事務取扱要綱に基づき、5月12日から6月13日までの間、教科ごとの教科用図書調査委員会を設けて専門的調査を行うとともに、5月22日から6月18日までの間、すべての学校においてすべての教科書に関する調査を実施しました。さらに6月10日から7月4日までの間、すみだ生涯学習センター内に教科書を展示し、ご来場された区民の方々からもご意見を伺ったところです。そして6月26日に教科用図書選定審議会を立ち上げ、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告を資料として、7月10日までの間、計3回の教科用図書選定審議会を開催し、すべての教科書について審議を行い、7月14日に墨田区教科用図書選定審議会の答申としてご報告していただきました。さらに委員の皆さんは6月2日から8月1日までの間、すべての教科書を実際に手にして、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民からの意見等にも目を通していただきながら、教科書の細部にわたりご検討をさせていただいたところでございます。なお、本日も本会場に教科書各報告等を用意しておりますので、必要に応じてご確認いただきながら審議をお願いいたします。審議の順序ですが、国語から順次11種について審議をいたします。なお、各教科の審議の冒頭に学習指導要領に定める教科ごとの目標について指導室長から説明をいただきたいと思っております。それでは、国語について審議をいたします。指導室長、お願いいたします。

指導室長 それではご説明いたします。国語並びに書写につきまして、学習指導要領の目標について申し上げます。国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるということになっております。国語科並びに書写とも5社ございますので、その中より1社の採択をお願いいたします。なお、国語の教科書と書写の教科書の出版社が異なっても、それは構わないということでございますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。以上です。

高林委員長 ありがとうございます。それでは、国語の教科書について審議をしたいと思います。国語は東京書籍株式会社、大阪書籍株式会社、学校図書株式会社、教育出版株式会社、光村図書出版株式会社の5社から採択をしたいと思います。ご意見がございましたらお願いいたします。教育長、お願いいたします。

久保教育長 国語につきましては、5社の中からということでございます。現行は光村図書出版の教科書を使っておりますが、先ほどご説明がありましたとおり、あと2年間使うということと、言ってみれば以前採択したものと大きな変更のないものの中での採択ということでございますので、その辺も含めていろいろ考えますと、特段の支障がなければ変更はあえてしなくても良いのではないかと思います。今回、国語についての教科書展示会のアンケートを見ますと、特にほかの教科は余り書かれていませんけれども、国語の教科書につきましては幾つか現行の使用教科書についてご意見がございまして、少し作品的な意味で暗いものが多いんじゃないかというふうなご指摘もあったところでございますので、改めて私も拝見させていただきました。結論から申しますと、私は現行の光村図書出版が良いのではないかというふうに思います。実はこの間の私どもの作業といたしまして、開発的学力向上プロジェクトで子どもたちの学習到達度の状況というのをいろいろ調べて参りました。その中で、いわゆる国語の力につきましては話す力、書く力、読む力、それから言語事項、この4つに分けて調

査した結果、18、19、20年度の3年間を見ますと、国語の弱点となっているのが書く力と読む力でございまして、ここはほかに比べて到達未成熟という傾向が強ございまして。現行の教科書の中で、この辺について特に配慮した教科書がないだろうかということで東京都教育委員会の研究資料を見ますと、領域区分の中で教材数の割合が高く、書くこと、読むことについて特に重点的に力を入れられているのは、この光村図書出版の教科書でございまして。それから、中身も読ませていただきました。実はちょうど「大きなかぶ」という素材について訳が違うというご指摘がございましたので実際私も読んでみますと、確かに違うんです。どう違うかといいますと、おじいさんがいて、おばあさんがいて、孫がいてと、順番にかぶを引っ張るわけですが、光村図書出版のはだれかが来るたびにかぶをおじいさんが引っ張って、それをおばあさんが引っ張ってと、こういうふうにかぶから出発しています。ほかの会社についても幾つか見ましたが、多分私が昔読んだ「おおきなかぶ」もそうだったかと思えますけれども、最後に登場した人物が前の人を引っ張り、それでまた前の人を引っ張ると、結果としてかぶを引っ張っている、こういう表現になっているものですから、リズムカルなのはどちらかというところの後者のほうですが、光村図書出版のは論理的といいますが、あえてそういうふうに訳したのは、やっぱりかぶから出発して順番に引っ張っているということを強調したのかなという気がいたしました。要はどちらの方向性が妥当なのかというのはよくわかりませんが、少なくとも目的が何で、どこから出発しているのがいいのか、あえてそういうふうに挑戦したことを評価したいなという気がいたしました。それから、実はどちらかというところ子ども向きという否定的な評価もありましたけれども、1年生の最後のところの学習の手引や学習の目当ての書き方を幾つか比較してみました。その結果、光村図書出版のものが1番丁寧で、具体的にこういうふうにしてみたらどうでしょうか、こういうふうに考えたらどうでしょうかというところを手引的に書かれていました。例えば「たぬきの糸車」というのが最後の82ページにありますが、ここでは好きなところは声に出して読みましようというふうになっているんです。これについてはほかの教科書でも例えば最後のほうに同じ時期に声に出して読みましようというところが出てくるんですが、このときのいろいろな働きかけの仕方や書いている表現が1番丁寧で、子どもたちに具体的な例がわかって、こういうふうに考えたらいいのかということが、ある意味では誘導的かもしれませんが、丁寧に書かれているなというのがありました。ほかのものとは比べて見て、どうもこちらのほうが、例えばタヌキのおかみさんになったつもりで教科書にない言葉を考えましようという提起をしている文章はほかの本でも出てくるんですが、そこに例として糸がたくさんできたよ、おもしろかったなというふうな例えが挙がっていたり、それからより具体的にどんなことがありましたかということについてのいろいろな提起が1番丁寧で相手を促すようなものが多いという感じがしました。確かに低学年向けという評価もあるのかもしれません。それから、あとは挿絵や写真などがありますが、光村図書出版のは割とそういう点ではなじみやすいのかなという気がいたしました。今日採択をした教科書を使うのはあと2年間なので、あえて取り替える必要はないのではないかとこのように思います。私からの意見は以上です。

高林委員長 ほかの委員さんはいかがでしょう。教育長は現行の光村図書出版で良いのではないかとこのようにご意見でございましてけれども。

高木委員 私もあと2年ということと、その後は指導要領も変わるでしょうから、そういうことを考えますとここで今までの教科書を替えるかどうか大きな焦点になると思います。私も見ましたが光村図書出版のは導入部分に非常に工夫があって、詩や何かで児童たちがある一定のイメージを持つような工夫をしているのが非常に印象的でした。個別に見ると例えば総ページ数がどうだとか、多分い

ろいろな工夫があると思いますが、まずは入りやすいということで光村図書出版で構わないと個人的には思っています。

高杉委員 私が見させていただいたところ、今まで使っていた教科書とそのほかの教科書は、そんなに遜色はないという感じがします。もちろん細かいことを見ればいろいろあるかと思いますが、全体的には本当に遜色ないように思います。それと、私もすみだ教育研究所で実施している学力の達成率などを見まして、やはり教育長と同じように書く力と読む力が多少ほかに比べると弱いことを考えますと、光村図書出版はその辺がある程度ボリュームを持って書かれているので、遜色ない中でも墨田の子どもたちには合っているのかなと思いますので、このまま使って良いと思います。

高林委員長 ありがとうございます。私も皆さんの意見とほとんど同じでして、前回の採択のときにも確か申し上げたような気がするんですが、光村図書出版の6年の下の教科書の最後の題材が谷川俊太郎さんの「生きる」という詩なんですね。今やはりこれだけ世の中で命だとかそういったことが非常に軽んじられていて、子どもたちが非常に厳しい状況の中に置かれているときに、やはり命をテーマにしたというか、「生きる」という詩を6年の最後にもう1回教材として取り上げていくというのは非常に意味のあることだと思いましたので、現行の光村図書出版をぜひあと2年間推薦したいなと思いました。皆さん、意見はよろしいですか。それでは、議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択についてのうち、国語について採択をいたします。国語は光村図書出版株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高林委員長 それでは、光村図書出版株式会社を採択することに決定いたします。引き続きまして書写について審議をいたします。指導室長、お願いいたします。

指導室長 書写の評価目標につきましては国語科と同じでございますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

高林委員長 書写につきましても、東京書籍株式会社、大阪書籍株式会社、学校図書株式会社、教育出版株式会社、光村図書出版株式会社の5社から採択をいたします。どなたかご意見がございましたらお願いいたします。

久保教育長 現行の使用は光村図書出版株式会社ですけれども、教科用図書調査委員会の調査結果を見ますと、全部で5冊ある書写の教科書の比較があり、主に数字によるものですが、硬筆が14単元、毛筆が32単元、取り扱っています。この点ではどちらの単元数も多く取り上げているのが1つと、それから構成分量のところでも筆順と運筆と字形というのがあるのですが、これもかなり多く取り上げていまして、この辺硬筆とも非常にバランスがいいなという感じがします。それからどうしても書写の場合、毛筆がかなり大きなウエート占めると思うんですが、毛筆の教材数が特にほかの教科書に比べて多いんですね。特に1文字、2文字というのは、23、29とほかではない数を取り上げており教材数が豊富になっています。また、印象の話になってしまいますけれども、色調が落ち着いていて見やすいということもありますので、これをあえて今、別のものにする必要はないんじゃないかというふうに思います。私からは以上です。

高木委員 そうですね。僕も光村図書出版で構わないと思っています。東京都の教育委員会の資料の中に主題ごとに区切られた単元数というのがありますが、光村図書出版は50単元あり、1番多く、書き方などの指示解説のページ数が、総ページ数に対する比率で見ても一番多くなっています。要するに注意深く、正確に筆順などを学びなさいという姿勢が感じられるんですね。ですから光村図

書出版で構わないと思っております。

高林委員長 高杉委員、いかがでしょうか。

高杉委員 私も光村図書出版で全然支障ないと思います。どうしてかといいますと、私が着目したのは毛筆の割合が多いということです。やはり小学校で、これから文字を習い始めますよというときに、毛筆で書き順やはねなどをきちっと教わるということが大事だと思ひまして、ほかのも遜色ないのですが、光村図書出版を使っているということで、これを継続して使って問題ないと思います。

高林委員長 私も皆さんのご意見とほとんど同じなんです、毛筆の字が大きいような印象を受けたんですね。それも非常に大事なことはないかなと思ひましたので、現行の光村図書出版でいいのではないかと思っております。特にそのほかご意見ございませんか。よろしいでしょうか。それでは、議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択についてのうち、書写について採決をいたします。書写は光村図書出版株式会社を採択することにしたいと思ひますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高林委員長 それでは、光村図書出版株式会社を採択することに決定いたします。それでは、続きまして社会について審議をいたします。指導室長、お願いいたします。

指導室長 学習指導要領の社会の目標について申し上げます。社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会の民主的・平和的な国家社会の形成者として必要な公的資質の基礎を養うという規定になってございます。社会につきましては5社より1社の採択をお願いいたします。以上です。

高林委員長 社会は東京書籍株式会社、大阪書籍株式会社、教育出版株式会社、光村図書出版株式会社、日本文教出版株式会社から採択をしたいと思ひます。社会については私のほうから少し意見を述べさせていただきたいと思ひます。国語でも出ておりましたけれども、平成16年度から実施されております墨田区の開発的学力向上プロジェクトの学習到達度調査等の結果を見ておりますと、墨田区の小学生の社会では観察や資料活用の機能表現とか、それから社会的事象についての知識理解のところが非常に弱い部分で、それは全学年にわたってそのような傾向が見られるように感じております。そして、そういったことを踏まえて改めて全部の教科書に目を通したんですけれども、視覚的な資料が非常に有効なのではないかと思ひましたんですね。地図や写真の資料を活用する、そしてグラフを読み取っていく、それから図を使って考えるというようなことを大事にしたいと考え、東京都の教科書の調査研究資料によりますと、東京書籍が視覚的資料の点数で非常に地図・写真の点数が他社に比べると多いと思ひます。そして、学び方・調べ方を助言する学び方コーナーがあり、こういったことも子どもたちの学習する上で非常に大事なことだと思ひました。そして小学校3年生の社会は地域ということで、実際には教科書と副読本の「わたしたちのすみだ」を墨田区では活用していますので、特に教科書の中に墨田区の情報に網羅されていなくても良いというような現場のご意見がございましたので、私は5年生、6年生の教科書を特に中心に検討させていただきました。そうしますと、もちろんすべての教科書にそれぞれの特徴がありまして、どれも遜色がないと思ひましたんですけれども、墨田区に関連する事項についてどのような扱いをされているかということで少し調べさせていただきましたところ、例えば歴史上の人物でいいますと、墨田区の場合、勝海舟とか、葛飾北斎とかが関連する人物なんです、残念ながら、広重のほうが多かったようで北斎については出てこなかったんですけれども、勝海舟につきましては全出版社が扱ってありました。その扱いはそれぞれでございまして、

勝海舟の写真だったり、それから肖像画だったり、それから勝海舟と坂本龍馬ということでページが割かれていたり、それから教育出版と東京書籍は西郷隆盛との無血開城のことが取り上げられていたんですね。教育出版のほうは説明と写真だったんですが、写真が無血開城の場所の碑の写真で、東京書籍の場合は2人が話し合いをしている絵で示されていて、そちらのほうは碑よりもわかりやすいのかなと思ったことが1点です。それから、あとは東京大空襲の扱いがどのようになっているかということも少し気になりましたので見せていただきましたけれども、東京書籍は6年生の上巻の中で見開きで大きな絵が載っていたんですが、それが業平橋という言葉が説明文の中に出てきて、業平のところで親子が火災の中を逃げ惑うという、非常に意味衝撃的な絵が載ってありました。墨田の場合は多くの方の犠牲があった中で今の墨田の平和があるということをいろいろなところで、学校でも教えておりますので、こういったことをやはり教科書の中で学ぶことは大切なのではないかなと思いましたが1点です。それから、現在活躍されている方、また墨田がいろいろなところで注目されていることについて、どのような形で取り上げられているかということも調べてみたんですけども、1つは環境のことで教育出版が雨水利用のことを取り上げておりました。これは墨田の雨水利用というのは非常に全国でも注目されているところですから、これもいいなとは思ったんですが、あとは日本文教出版が岡野工業の岡野さんの記事をかなり大きく載せていました。岡野さん自身が町工場のおやじですってご自分のことをおっしゃっていて、でもその方がNASAとか、痛くない注射針の開発をしたということで、やはり子どもさんたちにとってもこんな方が身近に、墨田に住んでいるということが載っているのは良いのではないかなと思いましたが、東京書籍の6年の下巻にはユニバーサルデザインの高橋正実さんが載っているんですね。高橋さんは実は点字カレンダーを各小学校へご寄附いただいていた、実際のものが各学校にあるということと、高橋さんは非常にまだお若い方で、確かまだ30代の方だと思うんですけども、デザインを通していろいろなメッセージを多くの所へ発信されていて、成田空港にも作品を展示されているということです。今回はユニバーサルデザインということで確か高橋さんが人権のところに出てきていると思うんですけども、例えば高橋さんを少し調べてみようと思うと、高橋さんからいろんなことを私たちは学べるなということ、私自身がインターネットで検索してみてもわかったんですね。本当に小さいころから墨田に住んでいた、いろんな町工場を歩いてみた、そして町工場のいろんな人たちからいろんな知識をいただいた、そしていろんな気づきがあったというようなことを語っていらっしゃると思いますので、そういった意味でもこれからの子どもたちがこういった若い世代の人たちを目標に生きるには、高橋さんを取り上げていただいている東京書籍は良いのではないかなと思いましたが、特に大きな問題があるわけでもございませんので、やはり現行の東京書籍を引き続き採択したらいいかなものかというのが私の意見でございますけれども、ほかの皆さんはいかがでしょう。

高木委員 私も東京書籍で構わないと思っております。今、委員長のほうから内容面について詳しいお話がありましたので、形式的な話についてちょっと見てみますと、例えばこれは東京都教育委員会の資料なんですけれども、表記、表現及び使用上の便宜というのがあります。東京書籍はこの中で断然多いのが写真の点数、それから注記の数も比較的多いです。要するに視覚的に訴えると同時に、注意すべきところはどこかというような形で使用上の便宜を図ってきたということが感じられます。委員長のほうからお話がありましたように、地図などの資料もよく取り上げているというので、視覚的な面で非常に強いのかなという印象を持っています。もっとも年表の数も一番多い訳ですから、いわゆる教科書本文プラス教科書を使用する際の付随的な注意事項、あるいは便宜事項に非常に注意を払

ったという意味で東京書籍で構わないと思います。

高杉委員 私も東京書籍が良いのですが、どうしてかといいますと、今、高木委員が言われたように、写真が圧倒的に多いということと、あともちろんイラストもきちっと入っているんですが、その形式が原則として上のほうに写真とかイラストが載っていきまして、下のほうに本文が載っていることですね。そのほかの教科書の内容については全社遜色ないんですが、ぱっと見たときに非常に入っていきやすいと思います。ですので、そのままこれを使ったほうがいいのではないかと思います。内容については皆さんがたくさん言われたので、そのとおりだと思います。

高林委員長 教育長はいかがでしょう。

久保教育長 私も特に現行のものを替える必要はないかなというふうに思っています。非常に印象的な話になるんですけども、初めの部分は教科書らしくないところがあるんですけども、中をあけてみますと、非常に読みやすいんじゃないかなという気がいたします。ほかにもいろいろ工夫している教科書はありますけれども、全般的に文字がちょっと小さいというのがあるので、それに比べるとこちらのほうが読みやすいのかなと思います。それから、1ページずつ完結する形で整理されていますので、その点でも入っていきやすいように思います。そういう点ではかなり印象的な話になってしまいますけれども、ほかのと比べて特に遜色はありませんので、これでよろしいんじゃないかなというふうな気がします。

高林委員長 それでは、議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択についてのうち、社会について採択をいたします。社会は東京書籍株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高林委員長 それでは、東京書籍株式会社を採択することに決定いたします。それでは、次に地図について審議をいたします。指導室長、お願いいたします。

指導室長 目標につきましては、先ほどお伝えいたしました社会科の教科書の目標と同一でございます。地図につきましては、2社より1社の採択をお願いいたします。以上です。

高林委員長 地図は東京書籍株式会社、株式会社帝国書院の2社から採択をしたいと思います。それでは地図でございますけれども、地図は多分つくっていらっしゃる会社のコンセプトが全く違った視点でつくられているというのが印象でございます。私はやはり見なれているせいもあって、地図というのはこういうものかなという概念で見てしまいますと、例えば色彩の濃淡がはっきりしているほうが見やすいのではないかと。それから、地図の中に情報がたくさん入っているほうが使いやすいのではないかなというふうに思ったりするんですね。先ほどもありましたように、どうも墨田の場合、児童がそういった資料から読み取る力が弱いということを考えますと、いろいろな情報が入っているもののほうがいいのかなというふうに初めは単純に思ったんですけども、これはもしかすると今後の課題かもしれませんが、余りに情報が入り過ぎていると、それだけで地図を開くのが嫌になってしまうようなことがあるとしたら、この辺はもしかすると考える余地があるのかなと思いながら東京書籍を拝見いたしました。ただ、初めのところの地図を使うための説明に関しては、帝国書院のほうで地図帳で遊ぼうというタイトルで、非常にいろいろな使い方の説明をイラストを使って説明されているんですね。ですから、最初のページをあけたときに、この後どう使いたいかと考えますと、こっちのほうでちょっと興味を引かれるのかなというのが私の印象でございます。あと東京都とその周りの詳しい地図について少し比較をしたんですけども、帝国書院が37ページ、東京書籍が45ページに出てい

るんですが、これもやはり帝国書院のほうが詳しいんですね。地図というのは自分の身近な所や関係する所をまず開くような気がいたしますので、そういったときに東京とか墨田区とか関東というところの情報がたくさんあるというのは、地図を活用していく上でも最初の段階としてもいいのかなと思います。この2つを見ても、色彩のはっきりしている帝国書院のほうが強い印象を受けましたので、私は現行どおり帝国書院を推薦したいと思います。ほかの皆さんのご意見がございましたらお願いいたします。

高木委員 結論的には帝国書院で結構だと思います。もう一方の東京書籍も一生懸命見たんですけども、帝国書院は情報量のある程度盛り込むという発想ですし、東京書籍は小学生に合った地図になるたけしようという発想ですから、確かにつくっている概念が違いますが、やっぱり幾つかポイントになるところがありそうな気がするんですね。東京周辺の話もそうです。それからもう1つあるのは、日本全体の境界が一望のもとに見られるかどうかというのが重要な観点で、帝国書院だと12ページでしょうか。そこで日本の北端とか、そういうのも含めてあるんですが、東京書籍のほうは余り見当たらなかった。それから、世界地図がどの程度小学校で使われるのか私自身知りませんが、帝国書院はアジアとの関係を50ページあたりで示しているんですが、56ページにはアメリカ合衆国との関係が強く書いてあるんですね。アメリカとの関係というのは大事なんですけれども、ただ小学校で使うかと言われるとよくわからないんですが、アメリカについてこっちの東京書籍のほうはほかの地域と同じように触れているだけですから、帝国書院のほうが詳しいです。そういうふうに、地図でもやっぱりある程度ポイントを抑えながら帝国書院はつくっているというのが非常にわかります。中学になると帝国書院はもっと詳しく地域を拡大していきますけれども、何か小学校でこの程度は知っておいてもらいたいというポイントはやっぱり持っているというふうに思います。

高杉委員 教科書なものですから、やはり先生がこれを使って授業をするという観点で考えてみました。そうしますと、情報量が多くて帝国書院のほうが今までの地図に近いんです。一方の東京書籍は簡略化しているんですが、ある程度情報があったほうが授業として使ったときに内容を把握しやすく、先生が使いやすいのかなと思います。単純なほうが使いやすいだろうという考え方もありますが、やはりいろいろ興味を持ってもらったり考えてもらったりするにはある程度の情報が必要だと思いついて、現行のままで良いのではないかと思います。

久保教育長 どうしても昔見た地図の印象に帝国書院のほうに近いので、なじみやすいところが実際あると思います。東京書籍のほうもちょっと薄いんですがいろいろ工夫されていて、大きな縮尺の地図は今までと同じような地図になっていて、小さいのは小さいということで、狭い区域を少し大きく描いたところでは住宅地と商業地を分けて市街地を色分けするなどの工夫をしていらっしゃる。これが実際の授業を進めていく上でどういう意味を持つのかよくわからないのですが、次のページをめくると今度は普通の地図のような色分けになっている。しかし、この凡例の関係の説明が実は書いてないんです。単に標高が高くなっている地図で、高さが表現の凡例になっていますから、すっきり頭が切りかわらないところもあって眺めているとわからなくなってしまうと感じました。丁寧にやっている部分はあるのかもしれないけれども、逆に地図の読み取りがしにくいものではないのかなというふうに感じますので、帝国書院のほうが良いのかなという気がいたしました。

高林委員長 それでは、議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択についてのうち、地図について採決をいたします。地図は株式会社帝国書院を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高林委員長 それでは、株式会社帝国書院を採択することに決定いたします。では、引き続きまして算数について審議をいたします。指導室長、お願いいたします。

指導室長 算数の目標について申し上げます。数量や図形についての算数的活動をして基礎的な知識と技能を身につけ、日常の事象について見通しを持ち、筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理の良さに気づいて、進んで生活に生かそうとする態度を育てるものとあります。算数につきましては、6社より1社の採択をお願いいたします。以上です。

高林委員長 算数につきましては、東京書籍株式会社、大阪書籍株式会社、大日本図書株式会社、学校図書株式会社、教育出版株式会社、株式会社新興出版社啓林館の6社から採択をしたいと思っております。ご意見がございましたらお願いいたします。

高木委員 じゃ私のほうから算数について意見を申したいと思っております。算数は2、3年前からそうなんですけど、分数のできない大学生とか小数のできない大学生ということで、大学にとっても非常に重要なんですね。小学校でつまずいてしまうと、後にそれが尾を引いてくるわけです。OECDのPIISAないしはピザといいますけれども、学習到達度調査でもどんどん日本の数学が落ちてきているという現象があります。教育界よりも財界のほう心配しているというのが今の現状ですね。それから、墨田区の開発的学力向上プロジェクトの平成20年度の一番新しい調査結果を見ますと3つぐらいの項目に分かれているんですけど、そのすべてで学年が高くなるほど到達度が低くなるという非常に極めて困る状況がありますので、教科書選びは非常に重要だと思っております。ただ、今回の算数については今使っています東京書籍で構わないのではないかとというのが結論としてはあります。その理由について、以下幾つか述べさせてもらいます。まず、目次がどうつくられているかというのは割と重要なんですね。要するにその学年で何を教えるのかということ。それは単元名及びその活動名になるんですけども、これがきちりとられているのが東京書籍と啓林館です。2年生で非常に重要なものの1つに直線の引き方というのがあります。大人だとすぐに引けるんですけど、なかなか直線を引くというのが低学年では結構重要なことになります。それについて写真入りで、しかも枠までつけて強調しているのがこの東京書籍です。例えば大阪書籍ですと問題の中で説明しています。大日本図書だと問題として出題するとか、学校図書も問題の中で処理をしています。教育出版も問題の中で処理をしています。ただし教育出版は写真も出ております。啓林館も写真入りで、これは割と東京書籍と同じようにやっているということがあります。それからもう1つ、どちらかということと入り口の話や最近の流れみたいな話の1つとして、パソコンの活用みたいなのがどういうふうに行われているかということがあります。もちろんこういうのは5年6年を対象ですが、東京書籍が4.5ページで1番多く載っています。その次が2ページぐらいのところですから、そういう新しい動きにも察知しているということがわかると思っております。それから、全体的に1、2年、3年から6年までと領域の分け方が違います。1、2年は数と計算、量と測定、図形という格好で分けられます。このバランスが大体似ているのですが、東京書籍が比較的バランスがとれています。特に図形と量と測定のバランスです。それから、3年以上になりますとそのジャンルが4つになります。数と計算、量と測定、図形、それ以外に数量関係というのが入ってきます。このときにどこを重視するかというのが、後に割と重要になってきます。算数といえば計算だというのが確かにありますので、そうしますと数と計算のウエートをページ数で測定しているんですけど、東京書籍だと53%、それから大阪書籍が48%、大日本図書が51%、学校図書が47%、教育出版が48%、啓林館が44%というようになっております。計算力は算数の基礎

になるので、東京書籍が良いのではないかと考えております。あと、インターネットや電卓にも使えるよというしるしがあるんですが、特にインターネットのデジタル教材に当たる部分が1番多いのが東京書籍になっているというので、東京書籍が1番今後起きることに関して従来の算数と違う流れというものまで取り入れようということが伺えます。そして、練習問題の扱い数や使用上の便宜、それから写真のページ数とかいろいろなのを見たんですけども、別段東京書籍が劣るようなことはありませんでした。ですから、特に僕なんかは使用上の便宜というのを重視するんですが、それだと東京書籍が割とそういうのにも配慮しているということがわかります。もう1つは各社の6年生の下にある到達度と発展的な数学への関心に関する設問です。名称などは違いますが、スタイルは6社とも似ております。東京書籍を例にとれば、卒業旅行というのが22ページにあるのですが、これは6年間の算数の学習の終わりに当たって今後新しい方向に算数を見ていこうというもので5つのコースに分けています。国際コース、日本コース、歴史コース、クイズ・パズルコース、分数コースがあるのですが、日本コースを見ますとツルカメ算みたいないわゆる和算の話や江戸時代の面積の求め方というようなちょっと通常の算数では扱わないような領域に足を踏み入れています。ただ、そういうことは東京書籍だけの特徴ではなくて、実はほかの出版社もそうです。ただ取り上げている内容が違います。卒業旅行がそういう発展的な話だとすれば、2番目として算数のまとめということで、例えば数と計算や量と測定など、さっき言った4ジャンルごとに6年間でいろいろな問題が出てきます。これには15ページ割かれています。それから、もう1つ、東京書籍では最後に6ページほど割いて6年生のおもしろ問題にチャレンジと称して、6年生用の発展という格好で展開されています。特に6年生のまとめについて東京書籍が劣るということもないし、まとめは15ページプラス6ページで21ページですから結構ページ数を割いています。先ほどの発展的な卒業旅行というジャンルは各出版社の見せどころなんですが、東京書籍は5つのコースに分けてなかなかおもしろい構成になっています。ですので、そういうことを考えますと、別段ここで新しい教科書にスイッチする必要はないと考えております。むしろ今のままで構わない。スイッチしないとすると消極的な感じに聞こえますが、積極的に押せるのではないかと考えています。それから、本筋と全く関係ないんですけども、東京書籍の場合、注意したいことが2つあるんです。1つは6年の下巻の後ろの著作関係者というページに名前が載っているのですが、今、大学の職制が、従来の助手、講師、助教授、教授という職制から、助教授、准教授、教授、それから別枠で講師というふうに変わりつつあります。これを見ますと、確かにこれは20年7月になっていますから、助教授というのが消えて准教授になっています。それは良いのですが、恐らくアメリカの方だと思うんですが、ディポール大学助教授という方が執筆されているんですね。これは日本に職制として助教授がないわけですから、アメリカだとすればアシスタントプロフェッサーか、あるいはアソシエイトプロフェッサー、推測としての日本語訳なんだろうと思うんですが、それを訳すときに助教授でいいのかどうかというのを確認をとってほしいんです。それからこれも余り本筋と関係ないことなんですが、6年の下の84ページで点字の数の表し方というのがありまして、東京法務局武蔵野出張所とか出ていますが、これは武蔵境の付近を対象にしていますね。ですから、日本獣医畜産大学というのが書かれています。この大学は今、名称を変更したので存在しません。確か2003年だったと思うんですが、日本獣医畜産大学の学部構成と名前も変えています。これは調べていただければすぐわかります。その2点だけ直りますよね。

指導室長 ご指摘の点につきましては、東京書籍のほうには伝達をしたいと思います。確実に間違いであるならば、来年度の春の配本までには訂正がなされるかなというふうに認識させていただきます。

高木委員 わかりました。余計なことも言いましたけれども。

高杉委員 かなり網羅していただいているので、言うことは特にはないのですが、やはり算数ですから、授業があって練習問題があります。もちろん副読本があればまた別なんですけれども、一応教科書ということだけを考えていきますと、復習問題や練習問題が東京書籍は比較的多くなっています。同じぐらい多いのが学校図書ですが、問題を行い授業を進めていくと、もう一度同じような内容が出てくる。授業を進めていても復習ができるような構成も見られるので、ほかの教科書よりもそのところは東京書籍が良いのではないかなと思います。

久保教育長 調査委員会の調査資料に基づく、内容の配列の仕方が同じようで意外と違っているんですね。例えば罫線のところに図形の話が出てくるんですが、それが東京書籍は終わりのほうに出きます。

高木委員 そうですね。

久保教育長 数のことを全部一通りこなしてから出てきます。ほかのは途中で図形が入っているんです。間にはめ込んでいるという形になっていて、そういう点では数をずっとやってみて、次に図形をやり、最後の締めに入ると、こんな形になっているのが東京書籍の1年生の算数です。それから、2年、3年、4年と追いかけていくに従って、ほかの教科書は啓林館を除いて非常に単元の名前の設定が、いかに項目を羅列するののかという感じになっています。ところが東京書籍と啓林館は、何とかしようとか、こうしてみようという提起型になっていて、ある意味では投げかけを重視しているのかなと思わせるところもあります。実際に中をこうやって見ているときに比較的読みやすいんですね。そういう点では東京書籍は工夫しているのかなという気がしますし、そういう意味では態度といいますが、目標としてこういう形でやっていただければ大変ありがたいなと思う面もありますので、そういう点ではうちの数学の事情に合った教科書なのかなという気がいたします。ですので引き続き東京書籍が良いと思います。

高林委員長 そうですね。私も問題数が充実しているのかなと思いましたことと、それからいろいろなレベルに合わせて先生方が指導を展開させていくのには、この東京書籍の教科書はとても使いやすいのではないかと思います。あとは皆さんと同じような意見でございます。それでは、議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択についてのうち、算数について採決をいたします。算数は東京書籍株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高木委員 日本獣医畜産大学は2003年に日本獣医生命科学大学になったとのことです。

高林委員長 よろしいでしょうか。それでは、東京書籍株式会社を採択することに決定いたします。では、引き続きまして理科について説明をお願いいたします。

指導室長 理科の目標について申し上げます。自然に親しみ、見通しを持って観察・実験などを行い、問題解決の用意と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養うとなっています。理科につきましては、5社より1社の採択をお願いいたします。以上です。

高林委員長 理科は、東京書籍株式会社、大日本図書株式会社、学校図書株式会社、教育出版株式会社、株式会社新興出版社啓林館の5社から採択をしたいと思いますが、ご意見がございましたらお願いいたします。

高杉委員 理科の教科書を私が見る観点としては、小学生ですから勉強の仕方を学ぶということで、小学生のうちに理科嫌いではなくて理科好きになって、中学、高校へと進学して、意欲的に勉強していける基礎をつくるということが重要なんじゃないかなと思っております。高木委員からも算数嫌いという話が出ましたが、何より理科嫌いをなくするのが重要だと思います。そしてあと内容を見て思ったのは、墨田区というのはほかの区に比べると観察する対象が少ないんじゃないかと。やはりコンクリートの建物と密集地なものですから、そういう特徴があると思います。もう1つ、すみだ教育研究所の分析から観察・実験の技能・表現というところに課題があるというふうに報告を受けております。その点から見ますと、大日本図書がほかに比べて墨田区で観察できる動植物を載せている量が最も多いようです。そして、3年生の18ページのところにあるんですが、チョウチョの卵の観察で、卵から成虫になるまでを6ページにわたって載せていて非常にわかりやすいところもありました。墨田というのはこういうところが非常に弱いというか、余り見る機会がありませんので、ここのところは非常にありがたいなと思いました。そして、やってみようというものがあるんですが、授業で行った実験の後、さらに興味を継続させるのに役立っていますし、意欲を高めるんじゃないかと思います。学校図書に関して言いますと、各学年が1冊ずつになっているので、ほかに比べてちょっと文章や資料が詰まり過ぎているなという感じがしました。内容に入っていくにくい児童が出るのではないかという心配があります。啓林館に関して言いますと、イラストが多く、理科の場合は写真よりもイラストのほうが理解しやすいということがありますので良いと思いました。ただ、発展というコーナーがあるんですが、そこがちょっと難しいのかなという気がしました。そして、各学年の上の巻末に重ね合わせシートや光る星座カードがあって、工夫されているなど、そういうことも理科に入っていくやすい1つになるんじゃないかと思っております。教育出版で言いますと、学習を振り返ろうというもの載っていて、自分が理解しているかどうかを確かめられるのがすごく良いと思います。やはり1回授業を受けて、そしてまた復習をする。復習するのが当然なんでしょうけれども、授業の中でも復習できるというのが非常に良いと思いました。それともう1つ、わくわくチャレンジというコーナーがあり、発展的なページになっていますけれども、誌面とかそういうものの関係上こういうことになったのではないかと思います。絵とか写真が少し大きいほうが良いと思いました。あと6年上巻に見開きと折り込みを使って体の中の様子というのを表現しているところがあります。これはすごく良く、実物体ということで折り込みをしてうまく使っています。そして、東京書籍の確かめようという復習問題で、理解しているかどうかを確かめながら次に進めるのが良いと思っております。また、理科の広場というところがありまして、これはその単元の少し踏み外したところで意欲を高めるために、興味を引くような形になっていて、これも子どもたちには良いのかなと思いました。全部の教科書に良いところと悪いところがたくさんあるんですが、総合的に考えますと1番先に述べましたチョウチョの問題ですとか、墨田区で観察できる動植物を載せているのが多いということも踏まえて、理解の教科書は今までどおり大日本図書で良いのではないかと思います。

高木委員 今、高杉委員から詳しい説明がありましたが、私も大日本図書で構わないと思っています。つけ加えるとすると、用語がいろいろ出てきますよね。強調される基本的な用語の数が大日本図書は学校図書と並んで多いんですよね。だからそれだけ用語に注意を払うと同時に、児童に覚えていただくという姿勢があるのかなと思っております。ですので、特段新たに替えるという必要はないというふうに思っています。

久保教育長 先ほどもお話がありましたけれども、やっぱり実際に墨田区というのは本当に野生がな

く観察できるものが限られていますから、墨田区で観察可能なものが多いところが良いのですが、この調査委員会の報告を見る限りにおいてはほかにもっと墨田区の観察可能な動植物がありますよ、たくさん取り上げているのがありますよという教科書はあるんですが、では具体的な観察で提起をした件数はどのくらいあるかという、そこは意外と少なく、大日本図書のほうがそこは多いと思います。そういう点では実感的にも扱いやすいのかなというふうに思います。ですので、ほかのと比べて新たにここで替えなければいけない必然性はないという気がいたします。

高林委員長 私も大日本図書でよろしいのではないかと考えております。やはり皆さんおっしゃっておりますように、自然とか身近な生物の少ない墨田区では写真の大きさというのがかなり大事だと思うんですね。ですから実物が実際に見られないことを考えますと、写真はかなり大きくてはっきりしているものが良いのではないかと考えたことが1点。それから、墨田区も理科の学習状況を考えますと、内容は余り難しいものではなくて、入りやすいものが良いのかな、子どもが理解しやすい教材で発展もわかりやすい形で書かれている、そしてとても丁寧につくられている印象がありますから、大日本図書が良いのかなと思います。啓林館の教科書も非常に良いと思うんですけども、少し難しいような気がするんですね。理科嫌いを少なくするためには、やはり余り難しい教科書を使ってしまうというのはいかがなものかと思っておりますので、私も大日本図書が良いのではないかと考えております。委員の皆さん、よろしいでしょうか。それでは、議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択についてのうち、理科について採決をいたします。理科は大日本図書株式会社を採択することにしたいと思っておりますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高林委員長 それでは、大日本図書株式会社を採択することに決定いたします。ここで10分休憩をとりたいと思います。再開は3時5分にいたします。

(休憩)

高林委員長 それでは、教育委員会を再開いたします。生活について説明をお願いいたします。

指導室長 生活の目標について申し上げます。具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養うとなっております。生活につきましては、8社より1社の採択をお願いいたします。以上です。

高林委員長 生活につきましては、東京書籍株式会社、大阪書籍株式会社、大日本図書株式会社、学校図書株式会社、教育出版株式会社、光村図書出版株式会社、株式会社新興出版社啓林館、日本文教出版株式会社の8社から採択をしたいと思っております。どなたかご意見がございましたらお願いいたします。

高杉委員 生活の授業というのは教室で教科書を見て学習するのではなくて、外に出て児童自身が体験を通していろんなものに気づいたり感動したりしていく、そして成長していく科目だと思います。そういうことを考えそれぞれの教科書を見ますと、まず大日本図書は各学年とも折り込みのページがありまして、非常に伸び伸びとレイアウトされているのに気づきます。そして6年の下では半透明のトレーシングペーパーを使って非常に子どもたちの興味をひくように考えられていると思います。そして、下巻は探検というのがあるんですけども、全部の教科書の中で町のレイアウトやイラストが

1番墨田区と似ている感じがします。教室から町へ出たときに、魚屋さんやパン屋さんがあり、老人へのインタビューなど学習のヒントになりやすいものがたくさん載っています。東京書籍は横幅が少し大きく、ちょっと不整形になっております。そのために絵とか写真のレイアウトがゆったりして見やすいと思います。また、栽培というところがあるんですが、横幅を段階的に短くして見やすいように工夫しており、そういう工夫は横幅が大きいとできるということだと思います。生活という教科は体験が主となるので、ポケット図鑑というのが巻末にあるんですが、学校の外に出ているような体験をするときに便利に使えるのではないかと思います。大阪書籍も横幅が同じように少し大きい。その上、左右のページに折り込みがあって、写真がやや伸び伸びとレイアウトされています。しかも左右に両方折り込みがあるので4枚分になります。ただ、狭い机の上での取り扱いなので、大きさが4枚分になってしまうことを考えると気になることがあります。そして、飛び出せ町へというところでは野原を走っている子どもたちの写真があるんですけども、特に墨田区の子どもたちにとっては町を探検するイメージはちょっと遠いかなと。町のイラストを見ても、墨田の町とは全然違う町という感じがあり、実際に子どもたちは戸惑うのではないかと思います。下巻の1番最後に学び方ハンドブックというのがありますが、学校の外に出るという想定をすれば、切り離してそれだけを持っていけますので、便利かなという気がします。学校図書は町を探検の中でチャレンジ図鑑として身体障害者の工夫など知ってほしいものが載っていました。非常に身体障害者へのマナーというんでしょうか、そういうものも載っております。これも同じように、左右のページに折り込みがあって、伸び伸びとしたレイアウトで表現されていると思います。ただ、普通のサイズの本ですので、左右に折り込みがあっても寸法的にはそんなに広くはないかなと思います。光村図書出版の場合は、町探検、思いつき遊びでは、墨田と環境がちょっと違い過ぎます。町のことをもっと知りたいというところでは、紅葉した野原や栗や秋刀魚漁ですとか、ちょっと墨田とは違い過ぎるなという感じがしました。全国同じ必要はないんですが、ちょっと違い過ぎるような気がします。四季それぞれの町を紹介していますが、これもちょっと違うかなと。日本文教出版は左右のページに折り込みがあって、伸び伸びとしたレイアウトのイラストになっています。これも大きさが通常サイズなので、横幅の大きい教科書よりも使いやすいと思います。それと、ページの中も折れ線に従って折ることによって植物の成長が一目でわかるようになっているところがありますが、これなんか工夫されているなと思います。教育出版は、巻末に生活図鑑として外に出ているいろいろなものを体験するときのマナーや基礎知識がまとまって載っているのがすごく良いと思いました。啓林館も左右のページの折り込みがあり、伸び伸びとしたレイアウトになっていますが、巻末に春の図鑑、秋の図鑑が載っていて便利かと思います。さらに、汚れた手でさわってもふけるようになっていて、外に持っていくときには便利だと思います。以上のように、生活の教科書には良いところと悪いところ、墨田の町と似通っているところ違っているところがありますが、子どもたちがこの本を手にして、また本を読みながら外に出るということを想定しますと、大日本図書の教科書が1番合っているかなと思います。ですので、今までも大日本図書でしたので替える必要はないのではないかと思います。

高林委員長 大変詳しくご説明いただきましたので、特にご意見がございましたらお願いいたしますけれども、いかがでしょうか。

久保教育長 私も大日本図書で良いと思うんですけども、啓林館とこの2つが特に何となくどちらかなというくらいの感じを持っているんですけども、ただこれを比較してみますと、どちらも写真や挿絵などをいろいろ工夫していて、生活体験のところを何とかしてうまくつなげていこうというこ

とでかなり一生懸命書かれているのかなという気がいたします。そういう点では、私個人的に見て甲乙つけがたいところがあると思いますが、そういう意味では逆にほかのに比べてこの2つは良いのかなと思っていて、現在使っているのが大日本図書であれば、このままで良いのではないかと思います。それから、これは感覚的な問題ですけれども、名前のつけ方が何となく気に入っています。

高林委員長 私も子どもがわくわくしたりときどきしたりするようなそういったタイトルのつけ方って非常に大事だと思うんですね。特に低学年で使うということもありますから、興味・関心をいかに持たせるかということを見ると、現行の大日本図書がよろしいのではないかと考えております。

高木委員 私も大日本図書で構わないと思います。要するに、この科目というのは挿絵とか写真とか、文字がほとんどなくて視覚に訴えるような、そういう教科書ですよ。東京都の教育委員会の報告書を見ても、写真数や挿絵数が一番多いのが大日本図書で、2番目が啓林館で、ほかとその辺がかなり差があるというふうになっています。大体科目そのものが外に出るという感覚ですから、やっぱり写真や何か、実際に体験する、見るというのが多いほうが良いと思います。ですから、現在使用の大日本図書で構わないというふうに思います。

高林委員長 それでは、議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択についてのうち、生活について採決をいたします。生活は大日本図書株式会社を採択することにししたいと思います。ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高林委員長 それでは、大日本図書株式会社を採択することに決定いたします。続いて、音楽の説明をお願いいたします。

指導室長 音楽の件について申し上げます。表現及び鑑賞の活動を通して音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うとなっております。音楽については3社より1社の採択をお願いいたします。以上です。

高林委員長 音楽は東京書籍株式会社、教育出版株式会社、株式会社教育芸術社の3社より採択をいたします。音楽につきましては、東京書籍が童歌の数が非常に多く、日本の音楽を非常に多く取り入れられております。そしてあとは音づくりとか音探しといったところの領域が非常に充実しております。教育出版は手話ソングを必ずどの学年でも入れており、身体で表現するというところに割と重きを置かれているような気がいたします。それとあと新しい歌唱教材が多いのが特徴だと思います。教育芸術社は学習の目当ての示し方などが非常に工夫されておりまして、子どもたちもわかりやすいような形で、題材のほかに教材ごとに具体的な目当てが示されていて、非常にわかりやすいと思えました。墨田区の音楽事情というのを考えますと、墨田区はトリフォニーホールがあるということと、新日本フィルハーモニーと提携しているということで、6年の間に1回は必ずトリフォニーホールでオーケストラを聞いているんですね。それからあとミニコンサートや出前コンサートということで、生のオーケストラに触れる機会が非常に多いんです。教育芸術社も、それからほかの2社も、オーケストラについての絵や解説が出ているんですけども、特に教育芸術社の場合、5年生の教科書に非常に大きな形でオーケストラの並び方、それから楽器のことも出ているんですね。ほかのところももちろん扱っているんですが、これだけ見開きで大きく出ているところはここだけでした。それからあといろいろな楽器の説明も教育芸術社は非常に大きな写真を使っているんですね。例えば金管楽器が巻末の資料にあるんですけども、こんなに大きいです。それからあと音楽の導入のところですが、1年生の一番初めを見ましたら、それぞれに工夫されているんですけども、教育出版の場合は手話が

出てきたり、童歌が出てきたり、集団遊びが出てくるんです。東京書籍も身体表現があって童歌遊びという形で、まず音楽を楽しもうという感じで出てきているんですが、教育芸術社の場合はいわゆる音楽を専門にしていらっしゃらない先生方にも非常に導入の仕方がわかりやすいと思いました。歌を歌いながら動作をするということの曲がまずありまして、実際の動きも出ております。また、音楽に合わせて表現をするということで「みつばちマーチ」というのが出ていますが、それもいろいろな歩き方や、手拍子をしましょうとか、足踏みをしましょうとか、身振りをしましょうと非常に具体的に出ており、そして次に童歌があって、また手拍子に合わせて楽器を演奏したり、それから音楽に合わせて体を動かしましょうというように、音楽で勉強していくさまざまなものが1番最初のところに非常にわかりやすい形で出ているのも、1年生の導入のところでは良いのかなと思いました。それから、まず音楽で1番皆さんたちが、子どもたちのつまずきと言いますか、嫌いになるところが五線のところなんですね。教育芸術社の場合は2年生で体操で遊びましょうというので「ドレミの歌」が出てくるんですが、これはボディーサインといって、下から順番にドレミファソラシドをあらわしているんです。そこで「ドレミの歌」が出てきて、なおかつ次のところでは階段の図が出てきます。そして3年生でも同じこのボディーサインを使って、今度は実際にト音記号が出てきて、五線のところに行くというふうに。ですから2年で勉強し、3年のここまで持っていくというように同じ教材ですつといきますから、五線の導入に関しても非常に親切にできている、子どもたちが理解しやすいのかなと思いました。あとは1年生の鍵盤ハーモニカの導入のところで、黒鍵と白鍵があって、ドの位置とかをまず覚えなくてはいけないんですけども、それを歌を使って覚えるというか、を発見させるんですね。鍵盤ハーモニカに関しましては、どこの教科書にもきちんと説明が出ていますけれども、1年生の32ページ、33ページなんですけど、歌を使って、ドとソのお家がどこにあるのかというのが出ていて、これも実際に歌が出てきているからピアノの導入のところでもよく使ったりするようなもので、1回で覚えてしまうんです。ですから、こういったもので非常に子どもたちが新しいものに対して入りやすいのかなと思いました。それはリコーダーにも言えまして、リコーダーはやはりどこの社も丁寧に扱っておりますけれども、教育芸術社の場合は3年生の19ページ以降に出てきますが、運指のところの穴の押さえ方が非常に丁寧に、かつページのところ大きく横に出てくるんですね。これもとっても親切で、小さく書かれているより非常に視覚的な形で訴えているので、これを見たら絶対間違えないで押さえられるというところがあるので、良いのかなと思いました。ですから、墨田のいろいろなオーケストラを生で体験するとか、いろいろなことを含めて今までどおり教育芸術社で良いのかなと思いますけれども、私は個人的には教育芸術社の教科書が非常にオーソドックスな形の音楽の教科書だと思います。ですから、もしかすると音楽嫌いをつくってしまう可能性もある教科書のような気も実はするんです。というのは、楽典の部分というのは非常に説明が多いんですね。教材は比較的新しいものが少ない。あと、いわゆる体を使っていろいろするといったこともほかに比べると割と少ない。ただ、やはり先ほど申し上げましたように、楽器に関する説明のところの大きな絵譜と、それから実際に楽器を扱っていく上での丁寧な指導の仕方が教科書の中に出てきておりますから、音楽を専門でやっていらっしゃらない先生方にとっては非常に使いやすい教科書だと思います。1、2、3年の部分を特に注意して見せていただいたんですけども、その部分で私は教育芸術社を引き続き採択したいと思います。郷土の日本というところからアジアに行って、そして世界にというふうに教材を広げているのも良いのではないかなと思いました。特に裏表紙にいろいろな各種の祭りが出ていて、そこで使っている楽器の説明も1枚ですけども、各県のものが出てきているので、そういったこと

も興味・関心を持つのに良いのかなと思いました。以上でございますけれども、ほかに何かありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択についてのうち、音楽について採決をいたします。音楽は株式会社教育芸術社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

高林委員長 それでは、株式会社教育芸術社を採択することに決定いたします。それでは、図画工作についての説明をお願いいたします。

指導室長 それでは、図画工作の目標を申し上げます。表現及び鑑賞の活動を通して作り出す喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養うとなっております。図画工作につきましては、3社よりの1社の採択をお願いいたします。以上です。

高林委員長 図画工作は、東京書籍株式会社、開隆堂出版株式会社、日本文教出版株式会社の3社から採択をいたします。説明をお願いいたします。

高杉委員 図画工作の授業というのは、やっぱりさまざまな見方や感じ方とか、柔軟な発想を養うという、いわば子どもたちの感性に訴える内容が多いと思います。それにはやっぱり制作することや鑑賞すること、解説を理解することなどがバランスよく構成されていることが大切だと思いました。各社の教科書を見てみますと、東京書籍は作家自身の作品の解説がありまして、子どもたちにわかりやすく、作品への興味がわくのではないかと思います。そして、写真や見開きのページが多くて、またレイアウトがまとまっている感じがします。あと、児童の造形活動の様子を写した写真が多くて、児童の関心や意欲が高まるような気がします。それと、各ページの下に「どうしようかな」というコーナーがありまして、これですね、各ページにあります。児童自身が考えながら思いついたものを確かめながら見ることができるので、これは非常に良いと思いました。開隆堂のほうは、授業の中で大切にしたいものというのがマークで示してありまして、授業しやすいように工夫されています。作品の解説が丁寧にされているので、児童たちが作品の感想なんかを話し合えるのではないかと思います。そして、こういったことが鑑賞力を伸ばすことになることもあります。それと、折り込みのページがあって、児童の作業が一目でわかるという良さもあるんですけども、実際に作業しているときにページが破けたりすることがあるのではないかと思います。図画工作の場合は広げて作業することが多いものですから。内容については、児童の作品ですとか美術作品、暮らしの中の作品などが満遍なく取り入れられています。ただ、解説がちょっと少ないものですから、解説がもう少しあったらもっと良いなと思いました。そんなことを考えてみますと、やはり今までどおり東京書籍さんの教科書が非常に使いやすくできていますし、そのまま使ったほうが良いと思います。

高林委員長 ほかのご意見はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。特にないようでございますので、それでは議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択についてのうち、図画工作について採決をいたします。図画工作は東京書籍株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

高林委員長 それでは、東京書籍株式会社を採択することに決定いたします。では、引き続きまして家庭科の説明をお願いいたします。

指導室長 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して家庭生活への関心を高めるとともに、

日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身につけ、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てるとなっております。家庭科は2社より1社の採択をお願いいたします。以上です。

高林委員長 家庭科は、東京書籍株式会社、開隆堂出版株式会社の2社から採択をいたします。ご意見がございましたらお願いいたします。

久保教育長 この2社を比べると、サイズが明らかに違います。開隆堂出版のは大きくしてあるので、その分だけ中身が見やすいのかなと見てみたんですけども、実はいろいろな作業の手順を説明するページが横長なんです。横に見ていくと作業の手順が示されているという形になっています。ところが、東京書籍は縦長の説明が割と多いです。縦型の説明は慣れれば読めると思うんですけども、今こうやって作業をしていくときに説明がずっと入ってくるのは横の流れで説明しているほうだと思います。作業に使っていくものがすごく多く、範囲が広いですから、しかも日常的なさまざまな内容が載っていますので、むしろ具体的にわかるように、目で追いかけていって理解できるようなほうが作業をやる上でも非常に良いのかなと。そういう点で私としては今の開隆堂出版が良いと思います。

高林委員長 開隆堂出版は安全マークがしっかりしていたような気がします。大きさが結構大事だと思うんですが、東京書籍はそのマークがついているけれども小さいんです。いろいろな道具を使うので、そういったことも大事なのかなと思いました。皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書採択についてのうち、家庭科について採択をいたします。家庭科は開隆堂出版株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高林委員長 それでは、開隆堂出版株式会社を採択することに決定いたします。では、引き続いて保健の説明をお願いいたします。

指導室長 目標を申し上げます。心と体を肉体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てるとなっております。前回の採択におきましては、合計5社よりの採択を行ってございましたけれども、今回の採択に当たりまして1社より見本本が送付されなかったため、審査から除外し、4社からの1社の採択をお願いいたします。以上です。

高林委員長 それでは、東京書籍株式会社、株式会社学習研究社、日本文教出版株式会社、株式会社光文書院の4社から採択をしたいと思います。ご意見をお願いいたします。

高木委員 では、私のほうから意見を述べさせていただきます。1社の教科書が来なかったということで、4社からの選択ですね。3社についてはこういうふうに薄く2冊になっており、光文書院だけセットになっています。3、4年が健康な生活、それから育ちゆく私たち、5、6年はけがの防止、心と健康、病気の予防ということで、これは4社とも同じ構成になっています。ただ、それぞれに工夫があって、学習研究社ですとポイントになるところにいろいろなキャラクターが配置されているんですよ。写真でという手もあるのかもしれませんが、キャラクターが中心になり明示する形をとっています。それからもう一つ大きな特徴は、ふりがな付きの用語が多いんです。3、4年について言いますと、学習研究社が194、東京書籍が55、日本文教出版が77、光文書院が81です。5、6年になりますと学習研究社が364、東京書籍が94、日本文教出版が228、光文書院が159となっています。国語じゃないんだからと思うかもしれませんが、児童本人にわからないと困るわけですよ。そういう意味では、学習研究社は工夫をしたのではないかと思います。もう一つ学習研究社は単元ごとに児童が

みずから記入する欄があり、記録をとるわけなので、今ここで起きていることを自分だったらどうするんだろうというのがじかにわかります。しかもそれがノートとして後々生きてくるんです。要するにそういう記録性を持たせるというのが工夫だと思います。特にキャラクターやイラストを使うというのが学習研究社の一種のメリットですね。また、5、6年のところに病気の予防というのがあります。これが最後になるわけですが、病気の起こり方から始まって薬物乱用の害というところまでです。その中の1つに生活習慣病があって、生活の仕方と病気というのがあります。ほかのところは、生活習慣病についてはみんなと話そうとか、あるいは調べてみようとなっているんですが、日本文教出版は調べて発表しようとなっている、ここが非常に違うんですね。単に調べるわけじゃないですから、そういう面では日本文教出版の長所だと思います。ところが、出てくるデータが若干古い。やっぱりこういうのは新しくないと、どんどん成長する時期でもありますから。では学習研究社はいつも新しいデータを使っているかということそうでもないんですけども、そんな古いデータも使っていないということで、一応総合的に見て今の学習研究社の教科書を替える必要はないというふうに判断します。

久保教育長 学習研究社はやはりそういう図書をつくるのに慣れているのかもしれないんですけども、イラストも含めて非常に教科書として上手だなという気がいたします。東京書籍もかなり上手だと思います。ですが、キャラクターの工夫がもう少し必要かなという感じがします。確かに資料も古いですから、その辺も少し工夫してもらおう。そういう点では今の教科書が良いと思います。

高林委員長 よろしいでしょうか。それでは、議決事項第2、議案第82号、平成21年度使用墨田区立小学校教科用図書の採択についてのうち、保健について採決をいたします。保健は株式会社学習研究社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高林委員長 それでは、株式会社学習研究社を採択することに決定いたします。以上ですべての教科等について採択が終了いたしました。

議決事項第3

議案第83号「平成21年度墨田区立学校特別支援学級における学校教育法附則第9条図書の採択について」の案件を上程し、指導室長が説明する。

高林委員長 特別支援学級使用教科用図書ということで、やはり在籍している児童生徒のいろいろな障害その他の状態に応じて先生方がこれが1番いいのではないかとということでお選びいただいたと解釈してよろしいですか。

指導室長 はい、そのとおりです。

高林委員長 これは実際に使われている先生方がこれだということでご推薦いただいている教科書なので、私はこのリストのとおりで良いのではないかと考えておりますけれども、皆さんはいかがですか。

指導室長 すみません、補足になりますが、6ページをごらんいただければと思います。国語の教科用図書について、特別支援学級のある小学校からの希望リストがありまして、中段のやや下になりますが、国語の教科の後ろの方に検定とあり、第1学年用上・下から第5学年用上・下のところまでのリストが上がってきております。それぞれ緑小、業平小等々の学校から上がってきておりますが、出版社名が空欄になっております。これは意図的に空欄にしてありまして、少し前に国語の教科書の採択をしていただきましたので、そこで決定した出版社名が自動的に入ります。したがって、事前には

入れられないということであります。

高木委員 書写や社会など、ほかのところもそうですか。

指導室長 はい、同じです。

久保教育長 確認ですが、国語の中の「ごんぎつね」は、確か検定教科書の中にも入っていますよね。

指導室長 はい。

久保教育長 けれど、こちらは絵本という形で扱っているということですよ。

指導室長 はい。

高林委員長 それでは、議決事項第3、議案第83号、平成21年度墨田区立学校特別支援学級における学校教育法附則第9条図書採択については、原案どおり採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高林委員長 それでは原案どおり決定いたしました。

報告事項第1

「行政財産の目的外使用について」、資料1のとおり庶務課長が説明する。

高木委員 この使用料というのは日割りですか。

庶務課長 はい。墨田区行政財産使用料条例で定められている使用料を、日割計算しています。

報告事項2

「統合図書館の署名について」、あずま図書館長が口頭説明する。

(特に意見なし)

報告事項3

「鐘淵中学校の野球の関東大会出場について」、指導室長が口頭説明する。

高木委員 おめでたい話ですね。

高杉委員 優勝ですからね。

高木委員 僕も最初聞いたときびっくりしました。

高林委員長 ぜひ関東大会でも優勝してもらえるといいですね。

久保教育長 中学校ですから、4回勝つと優勝になります。負けても3位決定戦で勝てば、3位までは全国大会に出場できます。

高杉委員 全国大会はどこでやるんですか。

指導室長 山梨です。

高林委員長 墨田の子どもたちがいろいろなところで活躍するというのは、もちろん当該校もそうですけれども、非常にみんなも嬉しいですし、応援したいと思いますので、よろしく願いいたします。そのほかはよろしいでしょうか。それでは、以上で予定の議決事項、報告事項はすべて終了いたしました。これで教育委員会を閉会いたします。